

第3回ホール等文化施設のあり方に関する検討委員会 議事録

日 時：令和5年1月25日（水）10時00分開会

場 所：鳥取市役所本庁舎7階第2委員会室

出席委員：張委員長、中山委員、塩谷委員、河合委員、赤山委員、新委員、神部委員、棚橋委員

事務局：高橋企画推進部長、文化交流課 福山課長、城市課長補佐、藤田

福井資産活用推進課長、西垣係長、須崎生涯学習・スポーツ課長

戸田政策企画課長

オブザーバーとして、教育福祉振興会田邊管理者同席

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議題

(1) 第1回議事概要について（資料1について事務局より説明）

(2) アンケートの結果について（資料2について事務局より説明）

【委員】ハード面の話のほかに、気軽に立ち寄れるイベントや交流体験、観光客の集客や情報発信についてなどソフト面の意見もあり、参考になった。

【委員】活動している人も鑑賞のみの方も40代以下の回答が少なく残念。自分の活動の中でも一緒に活動する仲間を増やしていくのが課題。

【委員長】若い人の回答が少ない要因は。

【事務局】直接アンケートを配布した団体の中に若い人の団体が少なかったこと、市公式LINE会員には若い人もいるが、市からの情報が次々と来るため、時間が経過すると回答してもらいにくいこと、記述式だったことで敬遠されたことなどが考えられる。

【委員】駐車場整備の要望が多い印象。舞台関係は、観客が同じ時間帯に集中するため、多くの駐車場が必要。文化団体について、活動の主力は60代～80代ぐらい。会員数は減少している。

【委員】関わりのある複数の音楽イベントを中心に配布した。偏りがあるかもしれないが、回収数が多ければ、それだけ多くの市民の意見を聞くことができる。

【委員】今回のアンケートは、鳥取市が文化施設のあり方について検討していることを市民に知っていただくという意味でよかった。

【委員】記述式で書いてもらえるか不安だったが、結構書いてもらえてよかった。駐車場の不足については、多くの人を感じていると改めて分かった。実は中心市街地全体としての駐車場の数は結構あるが、施設のすぐ近くにないということ。駐車場の確保については、近隣施設の活用など、個別に対応せざるを得ないのでは。広報については、どのようなイベントをやっているのか分からないという意見もある。県・市の施設、民間の施設、ギャラリーなどの情報を一元化する場所が中心市街地各所にできれば、広報も行いやすいのでは。

【委員】自主企画の場合は、自分でポスターやチラシの配布なども全て行う。臨時駐車場として免許センターを借りるためには、市や県などの後援が必要。今、40代以下の文化芸術の参加は極めて少ない。合唱団の現状はどうか。

【委員】鳥取女性合唱団は、来年50周年を迎える。団員は20・30代から続けている人もいる。昔は専業主婦が多く、団員も50～60人くらいいた。時代が変わり、40代以下は子育てや仕事があり、団員確保が難しくなっている。休日の催しは子どもたちが文化芸術に触れるきっかけとして積極的に広報していきたい。

【委員】活動する中で40代以上は協力して一つのことをやっていこうという気持ちをかかなり感じる。人口が少ないからこそ、協力し合いながらやっていけるようなコミュニティづくりが必要。

【委員】文化芸術は子どもの時に興味を持たせる方が良い。市文化団体協議会は、市から委託を受け、小学校を対象に「芸術の出前講座」を行っている。講座を受けた子どもたちが今20代。教員となって出前講座に関わる事例もあった。

【委員】子どもの時から芸術に触れ、感性を育むことも教育の一環。若い人たちの芸術活動を支援する仕組みが必要。

【委員】アンケート結果に課題や問題点などが含まれており、一つの方向性が出ていると思う。あとは文化芸術活動も鑑賞もない人の意見も聞いてみたい。例えばTikTokやインスタでダンスの動画がよく掲載されているが、一種の芸術活動だと思う。こうしたSNSを活用すれば、若い人をもっと巻き込めるのではないか。

【事務局】活動も鑑賞もない人の声については、市公式LINE会員や市政モニターの回答の中にも含まれていると考える。

(3) 基本的な方向性 (資料3について事務局より説明)

【委員】平日の稼働率を上げるための学校等との連携は興味深い。小学校では、地域の人などの協力を得て、さまざまな体験学習を行っている。このような活動を文化施設でできればさらに充実する。大人でもちょっと体験してみたいという人は多いのでは。本格的に始めるかどうかは別として、きっかけとなるものを充実することは重要。文化施設のあり方に関する検討だが、同時に文化芸術振興のあり方に関する検討でもあると感じた。統合・多機能化だけでなく、例えば体験講座に特化した施設など、機能分担する方法もある。何かを始めたい人は、その施設の広報を見れば自分のやりたいものが見つかるというような。文化芸術振興と施設機能の両面で考える必要がある。

【委員】今、教育委員会で20年後の学校のあり方を検討している。学校との関係はこうしたことも踏まえて考える方がよい。個々ではなく、まとまった施設(舞台・展示など)が必要ではないか。子ども広場など、人が入りやすいような機能を考えるべき。

【委員】県文化振興財団が実施している「芸術の宅配便」を通じて、小学校での公演を行っているほか、県内東中西部に分けて、弦楽体験講座(青少年のための講座)を実施している。「芸術の宅配便」では、幅広い学年に演奏を聞いてもらっている。弦楽講座の場合は、興味を持ってくれた子どもに1対1でレッスンをしている。弦楽講座はあまり知られていないのでセットで広報できればよい。

【委員】重複した施設については一定の整理が必要、ニーズを分析してまちづくりにマッチした再構築、音楽、アート、文芸など日常の活動や発表、作品展示のできるレベルの高い空間の整備、音楽、演劇などのリハーサルや練習のできる空間、有名アーティストの興行が定着化できる規模の施設、地域の文化発信拠点となる施設といった意見に賛成。

【委員】資料3の基本的な方向性案に8番目の要素として「施設利用を促進するための仕組みづくり」を追加することについて異論はない。委員会の最終報告としては、どのようなイメージを想定しているのか。

【事務局】基本的には第1回からの全市的な現状課題、基本的な方向性、この先にある地域ごとの検討

も含めて、一つのものとして取りまとめていただけるとありがたい。

【委員】であれば、7番目にソフト面、8番目として地域ごとの具体的な方策の検討があって、今回は中心市街地を拠点としたエリアを検討するという流れがよいのでは。

【事務局】ご意見を踏まえ修正する。

【委員】資料3の8番目の要素「文化芸術とまち・人を繋ぐ」は、非常によい観点。文化芸術に引き込むためにも、居心地のいい場所、集える空間になれば、色々な方との出会い・交流が生まれ、そこから興味を持つ人もいるかもしれない。そのような繋がりを創出する場所は、ぜひ入れていただきたい。この基本的な方向性が今後どのように生きていくのか、もう少し明確になると検討しやすい。

【委員】文化団体としては、活動の成果を発表できる施設がほしい。現在、鳥取市美術展を県立博物館で開催しているが、できれば市の施設で実施してほしい。

【事務局】この基本的方向性は、市の今後の方針になるものと位置付けている。この方向性に基づいて、中心市街地や新市域ごとにどのような施設を再配置したらいいのかなどを検討していただく。その先に、具体的な構想・計画ができていくイメージ。

この委員会での議論の前提は文化芸術を盛んにしてこのまちをどれだけ元気にしていけるかということ。そのために施設はどうあるべきかということ。芸術活動が元気になることと、まちが元気になることはつながっている。資料3の1～8までの項目をセットで踏まえながら、どういう施設にしたらいいのかを委員会としてとりまとめていただきたい。

(4) 中心市街地の方向性 (資料4について事務局より説明)

【委員】市民会館など、過去に実施した改修にかなりの費用がかかっているが、仮に新しい施設ができた場合、既存施設は壊してしまうのか。

【事務局】市民会館の事例だと、平成21・22年度に耐震改修や1・2階席の改修などを行った。ただし、3階席は手つかずの状態。文化ホールも一昨年から昨年にかけて改修を行った。仮に施設を統合する場合、残った施設をどうするのかについては、施設ごとで考える必要がある。例えば、改修して他の用途に使う、あるいは建物を撤去し、跡地を他の用途に使うなど。

【委員】既存施設の改修による充実は難しいのでは。現地視察の際、設備関係の古さに衝撃を受けた。

【事務局】今後の方向性が定まった後で、その建物が使えるのか使えないのか。使えるとすればどういう使い方をしたら、よりまちにプラスとなるかなど、そのような議論はまた別にする必要がある。

【委員】資料4の現状と課題はよくまとまっている。この内容からすると、どのような形になるかは別にして、新しい施設が必要という風に読み取れるが。

【事務局】事務局として認識している現状課題をまとめたもの。これ以外にもあるかもしれない。既存の施設を改修して使えるところまで使えばよいという意見もあるかもしれないが、事務局としては、その先にある建替えのことを考えるとどうかなと感じている。一方で、4つの施設をすべて建替えることも現実として難しい。基本的には建物の更新時期が来ているということを踏まえて、どのような方向性がよいのか考えたい。

【委員】既存施設の利活用の検討については今後の話ということで、今回は基本的な方向性を検討することか。

【事務局】本日は、この現状課題を共有していただいたうえで、他にもこういう課題があるということがあれば追加していただければ。基本的にはこの現状課題を踏まえて、どのような方向性がいいのか。具体的に言うと、中心市街地で文化施設をどう再配置したらいいのか提案させていただく。

【委員】基本的に耐震強度の問題であり、対象4施設の中では福祉文化会館が最も耐震強度がない。福

社文化会館をあまり使わないので必要な施設かどうかは分からないが、改修するにしても耐震問題は必ず出てくる。全部を一気に改修したり建替えしたりではなく、中長期的に考えることが必要。市民会館の場合は、老朽化しているとはいえ、耐震強度が0.68。基本的に0.6以上あるので、使用することは可能。ただし、設備関係は古くなっているものでどうするかという問題はある。市民会館に関しては、旧市庁舎跡地がどうなるのかによって色々な考え方も出てくるのでは。旧市庁舎跡地の活用方法と一緒に考えていく必要があるのでは。

【事務局】市庁舎跡地に関する利活用検討においても、市民会館はどうなるのかといった意見があるが、現時点においては市民会館とは切り離して考えている。現在、災害時にも活用可能な市民が集えるオープンスペースとして設計を行っている。案として近々お示し、皆さんからまたご意見をいただく予定。オープンスペースとしての活用は未来永劫ではなく、将来、市民から別の活用を求める意見が出てくれば柔軟に考えることとしている。

【委員】この委員会での検討事項はあくまで文化施設の方向性ということでは分かったが、市庁舎跡地の活用によって、市民会館の駐車場やトイレの不足といった課題の解決につながることも考えられる。

【事務局】市庁舎跡地に駐車場機能は残す方向だが台数については検討中。駐車場を増やせば、広場部分は狭くなる。整備案については改めてお示しする予定。

【委員】オープンスペースとしての活用は未来永劫ずっと続くものではなく、途中で変更する可能性があるとのことだった。文化団体としては、市庁舎跡地を活用した文化施設の整備を希望していたが、将来的には他の施設にできる可能性もあるということか。

【事務局】オープンスペースは暫定利用ということではない。将来、社会情勢の変化によって市民から他の活用策などが出てくれば、改めて検討することもあるということ。変更を前提としたオープンスペースということではない。

【委員】市民会館を暫定的に利用する場合、駐車台数をなるべく多く確保してほしい。

【事務局】駐車台数については、全ての人の台数を確保することは不可能なので調整が必要。あくまでもオープンスペースとその利用者、市民会館の利用者の現状を踏まえながら台数を考える必要がある。

【委員】小学校の児童数が減っているので、中心市街地の近くの小学校が統合されるというような話を聞くことがある。そうなった場合に小学校の跡地の活用方法は鳥取市に決定権があるのか。

【事務局】小学校の統合については、ここでは申し上げられない。駐車場に関して、現状で中心市街地には多くの駐車スペースがあるが分散している。有料や月極など様々であるが、駐車場の件はクローズアップされてきているので検討していく必要がある。

【委員】資料4について、興味深いのは貸室稼働率。福祉文化会館が低いのは分かるが、市民会館会議室の中で大会議室の稼働率が高い理由が知りたい。他にも大ホールを使う場合、他の団体が他の部屋を使えなくなるということだったが、ホールの稼働率よりも出演者控室3の方が高いことも疑問。同じ建物の中でも、なぜその部屋の稼働率が高いかということが分かると、仮に新しい施設を整備する方向となったときに、新しい施設や既存施設にどのような機能を入れるのか検討するうえでの参考になるのでは。もう一つ興味深いのは修繕費。資料4のP7「各施設の改修経費の試算」について、かなりの金額がかかるのだと感じた。一方で、新しい建物を建てるにしても、第2回委員会の資料で参考資料として示された境港市の「みなとテラス」でも45～50億となっており、国の補助金などが活用できるかどうかなどの要素も関わってくると感じた。

【委員】市庁舎跡地活用について、敷地がほぼ一体化しているので市民会館と合わせて議論してはどうかという話があったが、切り離して議論するということがあったので、とりあえずはオープンスペースとして、将来的に利用が決まったらその方向で進めると理解していた。市庁舎跡地が一体的に活用できるのかどうかによって文化施設の方向性も変わってくる。市のスタンスを改めて確認したい。

【事務局】「旧本庁舎跡地活用専門家委員会」の報告書でも、本論のところはやはりオープンスペース、緑地ということになっている。そしてその他の付帯意見的なところで、将来的に状況が変われば、変更というのもあるというような形になっている。これを受け、市は緑地を中心としたオープンスペースという方向性を決定し、進めている。

【委員】オープンスペースを前提にしてこの委員会の方向性を出すという話になると、仮に統廃合と複合化による新たな施設整備という方向性となった場合、結局はそれを建てる場所がないという話になるのでは。

【事務局】仮に新たな施設を整備するとの方向性となった場合でも、場所を含めて実現するための方策は、市が考えて提示していくことを想定している。

【委員】今回の委員会の中で土地のことは一切考えないで、結論を出せばいいという方向か。

【事務局】場所があるかどうかではなく、あくまでも文化芸術を盛んにするためには、文化施設をどうしたらいいのかという観点で考えていただきたい。

【委員長】今回のこの資料4に関しては、各施設の課題がまとまっている。次回に向けて、資料3の基本的な方向性として掲げる8つの要素と、資料4の中心市街地の文化施設の現状課題をどのように統合して、この委員会の最終のまとめとして提示してはどうか。

この委員会の役割は、市全体として文化芸術の振興のために施設はどうあるべきか、そのうえで、中心市街地ではどうあるべきかについて方向性を提案することと考える。その方向性を具体的な施設機能、建築にどう反映させるか、施設の運営にどう反映させるのか、用地をどうするのかなどについては、この委員会ではなく、専門家なども加わった新たな仕組みが必要。

資料3の8つの要素はバランスよくできており、資料4の具体的な問題提起と合わせて委員会としての方向性を3段階で考えてはどうか。一つ目は施設自体の機能、二つ目は施設とまちの関連性、三つ目は中心市街地と周辺地域との関連性。この委員会としては、まず、既存施設の現状・課題をくみ上げながら、それを一つ目に位置付ける。そして二つ目に広報、観光、中心市街地活性化といったまちづくりへの配慮や利用促進の仕組み。三つ目に中心市街地と周辺地域の施設の役割分担や連携。ハードとソフトの理想形としてそのような要素を入れたものをあり方として提案する。それに基づいて具現化していくとすると、例えば場所を考える場合に、一つ目の機能が実現可能か、二つ目のまちとの関連性が創出可能か、三つ目に周辺地域との役割分担や連携が可能かといったところ。仮に新たな施設を提案する場合、魅力的な、セールスポイントとなるような文言も入れながら3段階で整理してはどうか。

【事務局】本日の議論を踏まえ、次回は文化芸術を振興するための文化施設のあるべき姿をたたき台として提示させていただく。先ほど委員長から示されたイメージを踏まえつつ、その方向性によって、まちにどのような効果が期待できるかということも盛り込みたい。

4 その他

次回の開催日は3月15日（水）午前10時から、場所は本庁舎6階第3・4会議室。正式な開催通知は後日郵送する。次回委員会では、中心市街地エリアの文化施設の現状課題、アンケート結果、委員の皆さんの意見感想を踏まえつつ、委員長から示されたイメージも盛り込んだたたき台を提示させていただく。併せて、4回目以降の進め方についても提示させていただく。資料4の稼働率について増減の理由についても次回補足させていただく。